

MR（麻疹風疹混合）・麻疹ワクチンの 接種を希望される方へ

1 麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスの感染によって起こる感染症です。感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。

2 MR（麻疹風疹混合）・麻疹ワクチンの効果

MR（麻疹風疹混合）または麻疹ワクチンを接種することによって95%以上の人が麻疹ウイルスに対する免疫を獲得しますので、ワクチンを接種してからであれば、麻疹の患者さんと接触してもほとんどの場合発症を予防することができます。

いつまで免疫が持続するかについては、十数年間は持続すると言われていますが、獲得した免疫の状況や、その後の周りでの流行の程度によって異なります。

3 MR（麻疹風疹混合）・麻疹ワクチンの副反応

接種後の主な副反応として、発熱、発疹、じんましん、局所反応などがみられる場合がありますが、通常数日の経過で自然によくなります。また、ワクチン全般で言われることですが、まれに接種後30分以内にアナフィラキシーという重いアレルギー反応を認められる場合がありますので、接種を受けた後は少なくとも30分間、接種を受けた医療機関などで様子を観察しましょう。

4 接種にあたっての注意事項

(1)他の予防接種との間隔

生ワクチン（MR、麻疹、風疹、BCG、水ぼうそう、おたふくかぜ、黄熱ワクチンなど）の後は27日以上、不活化ワクチン（インフルエンザ、四種混合（百日咳・ジフテリア・破傷風・ポリオ）、二種混合（ジフテリア・破傷風）、日本脳炎、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、子宮頸がん予防、肺炎球菌ワクチンなど）の後は6日以上接種間隔をあける必要があります。

(2)接種を受けることができない人

- ① 接種直前の体温が37.5℃以上であった人
- ② 重い急性の病気にかかっている人
- ③ ワクチンを受ける3か月以内にガンマグロブリン（血液製剤の一種で、重症の感染症の治療などに使われます）の注射あるいは輸血をうけたことがある人、あるいは、6か月以内にガンマグロブリンの大量投与を受けた人
- ④ 接種ワクチンに含まれる成分（接種医におたずねください）でアナフィラキシーという重いアレルギー反応を起こしたことがある人
- ⑤ 免疫不全をきたすおそれのある人及び免疫機能を抑える治療を受けている人
- ⑥ 妊娠をしている女性および妊娠している可能性がある女性
※ワクチン接種後は少なくとも2か月間の避妊が必要です。
- ⑦ その他、接種医から接種しない方が良いと判断された人

(3)その他注意すること

- ① 予防接種後30分間は、接種を受けた医療機関などで様子を観察するか、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種後4週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種当日は激しい運動は避けましょう。
- ④ 入浴は差し支えありませんが、わざと接種部位をこすることはやめましょう。

5 予防接種による健康被害救済制度について

この予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた際には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法と特別区自治体総合賠償責任保険に基づく救済の対象となる場合があります。

給付申請の必要が生じた場合には、診察医師、保健所へご相談ください。